（様式第３号）

令和２年２月10日

登米市議会議長　　及川　昌憲　殿

議員
浅田　修　印

調　査　報　告　書

調査の概要は次の通りであります。

1. 調査目的

①鹿児島県日置市　ゆす村農園（有）　アボガドなど南国フルーツの栽培について

アボガドは、森のバターと呼ばれ、温暖な地域において路地栽培もできるトロピカルなフルーツである。また、ハウスでの栽培も容易である。おもに九州や西日本などで栽培されている。

登米市の農業においては、若い世代の新規就農者の確保・育成も課題の一つとなっている。また、果樹、園芸においては、新たな作物の生産に取り組むことが必要であると考える。

これらの解決に向けての方策として、アボガドなど南国フルーツ栽培の取り組みの現状や東日本で栽培する上での課題などについて調査する。

②宮崎県日南市　移住促進空き家再生推進事業について

日南市では伝統的建造物郡保存地区を有する城下町の景観を維持し、観光地としての魅力を更に向上させるため、空き家の利活用などを中心としたまちなみ再生を行っている。

この取り組みを視察することで、登米市においても城下町登米（とよま）などのまちなみや観光地の再生を目的とした空き家の利活用を提案するために調査する。

2. 調査先　　１月29日　①鹿児島県日置市　ゆす村農園（有）
　　１月30日　②宮崎県日南市

3. 調査期間　　１月29日～１月31日

4. 調査の経過と結果並びに所見
　　別途添付

5. 添付書類　　調査先の説明資料

令和２年１月政務調査行程表

実施日１月29日（水）～1月31日（金）

1日目　1月29日（水）

登米総合支所出発　　5：00　車乗り合わせ
↓
仙台空港着　　6：30

仙台空港発　　7：35（ANA1276便）
↓
福岡空港着　　9：50

福岡空港　　（地下鉄）
↓
博多駅

博多駅発　　10：39（新幹線さくら547号）
↓
鹿児島中央駅着　　12：04

鹿児島中央駅発　　12：29（電車）
↓
伊集院駅（日置市）着　　12：47

伊集院駅　　（タクシー）
↓
ゆす村農園（日置市）着　　14：00

ゆす村農園　　14：05～15：30　政務調査

ゆす村農園　　（タクシー）
↓
伊集院駅

伊集院駅発　　16：35（電車）
↓
鹿児島中央駅着　　16：53
↓
ホテル　　「ホテルレクストン鹿児島」

2日目　1月30日（木）

ホテル出発　8：20（タクシー）
↓
鹿児島中央駅着

鹿児島中央駅発　8：49（きりしま6号）
↓
南宮崎駅着　10：51

南宮崎駅発　12：25（快速マリーン号）
↓
飫肥駅着　13：35

日南市国際交流センター　14：00～15：30　政務調査
小村記念館

飫肥駅発　16：31（電車）
↓
宮崎駅着　17：47
↓
ホテル　「宮崎観光ホテル」

3日目　1月31日（金）

ホテル出発
↓
宮崎駅着

宮崎駅発　10：31（電車）
↓
田吉駅着　10：39

農家直売わくわく市場　10：50～12：00　視察調査
パーフェクト

田吉駅発　12：52（電車）
↓
宮崎空港着　13：01

宮崎空港発　15：05（ANA508便）
↓
大阪（伊丹）空港着　16：05

大阪（伊丹）空港発	17：00（ANA737 便）
↓	
仙台空港着	18：10
仙台空港発	18：25
↓	
登米総合支所着	20：00

調査報告書

日時　令和2年1月29日(水)14:05～15:30

調査地　鹿児島県日置市ゆす村農園有限会社

目的　アボカドなど南国フルーツの栽培について

説明者　ゆす村農園有限会社[redacted]

調査内容

◎ゆす村農園有限会社

・2005年に現在、[redacted]が鹿児島県立短期大学2年生の時に設立した。

・アボカド、マンゴー、アテモヤなど熱帯果樹の遺伝資源の収集・保存と苗木や果実の生産に取り組む。現在、ゆす村農園ホームページにて数多くの品種を発売中。

・指宿市の耕作放棄地を再生して、アボカドの路地栽培にも取り組んでいる。

◎南国フルーツの栽培について

・1年物の苗木であれば、3～4年後には収穫できるようになる。

・収穫できる条件として、木が大きくなることが必要である。

・鉢植えではなく、地植えすることで収穫が早まる。

・葉を増やすことが実を増やすことにつながる。

・直径 1m(樹木の外周)で何年か収穫し、その後、土を寄せて土増しをして、直径 2mぐらい(樹木の外周)で10～20年、収穫することができる。

・1本の木で30～40年は収穫可能である。

・関東以北はハウス栽培が条件となる。ただし、加温が必要。

・東北地方においても暖かいハウスなど、条件が揃えば通年栽培は可能である。

・東北地方でも少加温で大丈夫な品種は、いくつかある。

◎アボカドの現状について

・果実の中で栄養価の高さが世界一である。

・ビタミン、ミネラルが豊富である。

・コレステロールを溶かしてくれる善玉の不飽和脂肪酸がたっぷり含まれている。

・カロリーはバナナの 2 倍、「森のバター」という愛称で呼ばれている。

・消費量が急激に増えており、国内の年間消費額が 129 億円となっている。

・これだけの需要がありながら、99%以上が輸入でまかなわれている。

・国内での栽培も可能である。

◎アボカドの栽培について

・水はけの良い土壌を好む。土壌は弱酸性。

・樹形(木の高さ)は低くても構わない。収穫しやすい高さに調整すること。

・1 反分(1000 ㎡)に苗を 40 本植える。

・1 本の成木(10 年以上)から 100～200 個収穫できる。

・現在、夫婦 2 人で 2 反分を栽培している農家で、1 個当たり 1,200 円～1,500 円として、年収は約 800 万円位である。

・将来、国内産の需要が高まり、1 個 250 円前後になった場合に、夫婦 2 人で栽培して 800 万円の収入を確保するには、栽培面積が 5～8 反分となると試算される。

日置市伊集院町「ゆす村農園」
所見

説明を担当して頂いたのは、[redacted] 今年35歳の女性の方である。ゆす村農園は、[redacted]が15年前の短大2年の時に設立した会社である。

ハウス内に入ると、きれいに整理されており、アボカド、マンゴー、ライチなど１０種類以上のトロピカルフルーツの苗木の育成販売を行っている農園である。若い従業員の方が生き生きと仕事に励んでいる姿が印象的であった。

国内に流通している南国フルーツについては、ほとんどが外国産。
中でもアボカドは東北地方においても暖かいハウスなど条件が揃えば通年栽培も可能であるとのこと。品種により植える場所の温度や収穫時期、果実の品質や大きさを考えて品種を選ぶとよいとのことである。
アボカドは育てやすく、植えておけば休耕地の活用対策、高齢化に向けた作業の軽減化にもなるなど、一石二鳥の取組ができるとのことであった。

本市の農業においても、若い世代の新規就農者の確保・育成が課題の一つとなっている。さらに、果樹においても新たな作物の生産に取り組むことが必要であると考える。また、農業従事者の高齢化により離農者が増えたことで、使用されていないビニールハウスの利活用についても課題となっている。これらの解決に向けての方策として、アボカドなど南国フルーツの栽培について、JAなど関係機関と連携し、早速、調査・研究を始めるべきと考える。

魅力あふれるトロピカル果樹栽培が本市においても魅力ある農業の一つになればと期待する。

調査報告書

日時　令和2年1月30日（木）14：00～15：30
調査地　宮崎県日南市国際交流センター小村記念館
目的　移住促進空き家再生推進事業について
説明者　日南市総合政策部総合戦略課
地域イノベーションリーダー　金丸　裕一　氏
地域政策係　主査　竹下　光也　氏
日南市議会事務局
総務議事係　主任主事　中山　綾香　氏

調査内容
◎日南市の概要
・人口　約51,000人
・面積　536.11㎢
○都市計画区域　49.59㎢（日南・南郷）
・用途区域　10.72㎢（　〃　）
・日南市は、平成22年から8年連続で「スイトピー出荷量」が日本一。
・宮崎県は、平成4年から27年連続で「スギ丸太生産量」が日本一。オビスギが有名
・日南市は、平成18年から12連続で「カツオ一本釣り漁獲量」が日本一。
・日南市は、広島東洋カープ、埼玉西武ライオンズのキャンプ地となっている。

◎伊東家5万1千石の城下町「飫肥（おび）」
・現在も城下町の中に武家屋敷が点在（保存）しており、1977年には九州・沖縄地方で初の重要伝統的建造物群保存地区として、文化庁から選定された。
・その美しいまちなみから、「九州の小京都」とも称されている。
・飫肥城は、「日本の名城100選」に選ばれている。
○飫肥地区には、年間約20万人の観光客が訪れている。

◎景観計画について
○策定経過について
・平成22年12月から23年10月まで、景観まちづくりワークショップを5回開催。
・平成24年2月　H23年度第1回日南市景観協議会
・平成24年2月～3月　市民パブリックコメント実施
・平成24年3月　地元説明会
・平成24年3月　H23年度第2回日南市景観協議会
・平成25年2月　H24年度第1回日南市景観協議会
・平成25年12月　H25年度第1回日南市都市計画審議会
・**平成26年4月1日　城下町飫肥景観計画　策定**

○城下町飫肥景観計画策定の目的
・歴史的景観の保全と活用とともに、景観特性を活かした良好な景観まちづくりの推進。

◎飫肥城下町の再生

○再興の向けての課題

1. 地区住民の高齢化、空き家の急増
2. 飫肥城由緒施設入館者の激減
3. 城下町周辺の文化遺産の未活用

●由緒施設等の新たな集客資源としての利活用と、それを目的とする交流人口の増加を目指すことが重要。

○由緒施設等カルテ（各施設の損傷・劣化・雨漏りなど、現在の状態を診断し、今後必要な建物の修繕費及び維持・管理費を算出）

・今後 20 年間で修繕費が約 25 億円、維持管理費が約 15 億円、合計で約 40 億円の費用が必要と算出。

・市として、全ての施設の改修は、財政的に困難。

○民間事業者の活用事例

・市及び個人所有の物件に対して民間事業者が資金調達し、飫肥に投資。宿泊施設として再生させ、着実に実績を上げている。さらに、宿泊日数の約 4 割は海外（香港、台湾など）からの観光客となっている。

・IT 起業が築 140 年の古民家を購入し、オフィスへ、リノベーションした。雇用人数は 7 名（平成 30 年 4 月現在）

・日南市内の次世代経営者が築 130 年の古民家を個人で購入し飲食店へ、リノベーションした。雇用人数は 8 名（平成 30 年 4 月現在）

○市所有物件を民間事業者が活用した場合の市としてのメリットについて（例）

旧小鹿倉家

・業種は旅館。運営は、京都で旅館業を営む企業。

市としてのメリット

・民間投資により、今後想定される建物の大規模な修繕費については、市の負担がゼロになった。

・これまで、庭園管理や清掃等として、年間約 110 万円の維持管理費がかかっていたが、民間企業に貸し出すことで、年間約 150 万円の賃料収入となる。

○民間活用可能な由緒施設等を精査し、施設を分類

A 行政が直接運営　B 行政と民間で協同　C 民間活用を想定

○その他、文化財等を活用した取り組み事例

・有形文化財を舞台としたアート展示

・飫肥城内での市場（マルシェ）

・文化財での非日常的な食事会

・飫肥城内でのピアノコンサート

城下町飫肥（おび） 景観の取組について

所見

日南市伊東家5万1千石の城下町「飫肥」。現在も城下町の中に武家屋敷が点在し重要伝統的建造物保存地区として文化庁に選定され、「日本の名城 100 選」にも選ばれ、「九州の小京都」とも称されているその美しいまちなみが漂っていた。

しかしながら、各施設の損傷、劣化、雨漏りなど、今後 20 年間で修繕費が 25 億円、維持管理費が 15 億円、40億円の費用が必要と算出。市として、すべての施設改修は財政的に困難。そこで考え出されたのが民間事業者による重要伝統的建造物の活用の手法であると言う。活用する民間事業者を全国公募、企業のオフィスとして、宿泊施設として、飲食店としてアート展示など多岐にわたって多くの皆さんに利用されている。旧小鹿倉家はこれまで、庭園管理や清掃等、年間約110万円の維持管理がかかっていたが、民間企業に貸し出すことで、年間約150万円の賃料収入があるとの説明。結果、市としては民間事業者の自己資金で飫肥に投資していただき、今後想定される建物の大規模な修繕費については、民間資金や補助金を活用しながら、市の予算はできる限り使わないコストの削減はもちろん、賃料収入が入ってくるとのことでした。

登米市においてもの増額の一途をたどる文化財、建造物の維持管理・修繕費に対し、飫肥での民間事業者による活用取組み、多いに学ぶものがあると考える。